

小林秀雄著『本居宣長』:三十五章主題《言葉で作られた『物』(言霊・神・宣命・歌)⇒の『いではやみがたき』ありようの感知⇒音聲の文(あや)に出現⇒言語共同体の形成》:その「関係論」的纏め。

①宣命②命(みこと)宣(のる)③勅命⇒からの関係:①とは、②といふ言葉で、『③をうけ給はりて、宣聞する事[事の世界]をさしていへる目(な)⇒④文(あや)⇒[①を⑤又⑥の聞て、心にしめて感(かま)くべく、①に④をなして[言の世界]、美しく作れるもの』であつた⇒宣長⑤神⑥人

②磐戸③日の神④#言霊⑤幸はふ國⑥言葉⑦宣命⇒からの関係:⑩が想ひ描いたのは、②の中の③と外の⑪との間を取結んでゐる④の⑤であつた。其處で、⑪の間を行き交ふ⑥は、⑨としての⑥、⑦の④は、先づ宣るといふ事が作り出す⇒⑨音聲の文(あや)⇒⑨に現れた⇒⑩宣長⑪神々

①言葉で作られた[物](言霊:神)②心③宣命④言霊⇒からの関係:①の[ありやう]を感知とは⇒⑤文(あや)⇒②が直かに感ずる⑤といふ経験。即ち[⑥⑦の聞て心にしめて感(かま)くべく其詞に⑤をなし美麗]。③の④は、先づ宣るといふ事が作り出す、音聲の⑤に現れた⇒⑥神⑦人

①#心②おかしき事⇒からの関係:すべて①にふかく感ずる事は、④にいひきかせではやみがたき物也、②なども見聞て①に感ずる時は、必ず④にもいひきかせまほしくて、①にこめがたし。いはではやみがたきは自然の事⇒③#歌⇒③も此心ばへ也。④に聞かする所、③の本義⇒④人

①#歌②#言語③事實⇒からの関係:①は、②の働き[言葉で作られた物(#言霊 #神)のありやうの感知]といふものの本然を現す、といふ考へがある。②といふ紐帯で結ばれてゐなければ⑦には共同生活は営めないといふ解り切つた③を、⑥ほど深く考へた人はなかつた⇒⑥宣長⑦私達

①言語共同体⇒からの関係:[言]は[事]であるとする③の考へ方からすると⇒②音聲の文(あや)⇒④が共同生活を営む基本となるものは[やみがたく自然]な挨拶といふ事(わざ)を取交すにあるならば、そのうちで一番有効な②による挨拶の交換が①を成立させる⇒③宣長④私達

(物:場 C')...

①宣命②命(みこと)宣(のる)③勅命。  
②磐戸③日の神④#言霊⑤幸はふ國⑥言葉⑦宣命。  
①言葉で作られた[物](言霊:神)②心③宣命④言霊。  
~~~~~  
①#心②おかしき事。/①#歌②#言語③事實。/①言語共同体。

E: [F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法]...「So called」Fと(△梓)との距離獲得(Eの至大化)。  
~~~~~

[①を⑤又⑥の聞て、心にしめて感(かま)くべく、①に④をなして[言の世界]、美しく作れるもの』であつた。\*「⑨に現れた」。\*「③も此心ばへ也。④に聞かする所、③の本義」。  
\*「⇒④が共同生活を営む基本となるものは[やみがたく自然]な挨拶といふ事(わざ)を取交すにあるならば、そのうちで一番有効な②による挨拶の交換が①を成立させる」。

F(言葉・概念)・・・  
④⑤文(あや) ⑨②音聲の文(あや) ③#歌

(△梓): 宣長⑤神⑥人/⑩宣長⑪神々/⑥神⑦人/④人/⑥宣長⑦私達/③宣長④私達

からの関係(D1の至大化)

\*「①とは、②といふ言葉で、『③をうけ給はりて、宣聞する事[事の世界]をさしていへる目(な)」。  
\*「⑩が想ひ描いたのは、②の中の③と外の⑪との間を取結んでゐる④の⑤であつた。其處で、⑪の間を行き交ふ⑥は、⑨としての⑥、⑦の④は、先づ宣るといふ事が作り出す」。  
\*「①の[ありやう]を感知とは」。

\*「すべて①にふかく感ずる事は、④にいひきかせではやみがたき物也、②なども見聞て①に感ずる時は、必ず④にもいひきかせまほしくて、①にこめがたし。いはではやみがたきは自然の事」。  
\*「①は、②の働き[言葉で作られた物(#言霊 #神)のありやうの感知]といふものの本然を現す、といふ考へがある。②といふ紐帯で結ばれてゐなければ⑦には共同生活は営めないといふ解り切つた③を、⑥ほど深く考へた人はなかつた」。  
\*「[言]は[事]であるとする③の考へ方からすると」。